聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第３章　ヨシュアからサウル王までの時代②

デボラ・ギデオン

デボラ

イスラエルの歴史においては、女性たちが重要な役割を果たしました。中でもデボラほど際立った人物はいません。デボラという名前は、直訳すると「蜂」という意味です。「敵は刺し、味方には蜜を」与えてくれるというわけです。

祈りというものは、言葉を尽くした願いから「言いようもない深いうめき」(ローマ 8:26)に至るまで、無数の形を取り得るものです。記録されているデボラの祈りは、どちらかと言えば、ほとんど祈りとは認められないような類のものです。それは、神の力強いわざをあらためて描写する讃美の歌となっています。しかし、これをひとたび祈りとみなすなら、信仰を生まれ変わらせてくれる、心 駆り立てられるような型を提供してくれているのです。祈る人は誰しも、神が、御国とその民のためになしてくださった多くのことを思い返すことで、大いに恵まれることになります。

> その日、デボラ…はこう歌った。「イスラエルで髪の毛を乱すとき、民が進んで身をささげるとき、主をほめたたえよ。… 私は主に向かって歌う。イスラエルの神、主にほめ歌を歌う。…」(士師記 5:1-3)

ギデオン

土師の時代、イスラエルの人々は、主に一貫したかたちでお仕えしたわけではありませんでした。そこには一つのサイクルが見てとれます。人々は、しばらくは熱心かつ忠実に仕え、それに伴って、主の祝福が繁栄と勝利としてもたらされます。ところが、概してこれは長くは続きません。というのも、人々はほどなく主の戒めから離れていき、偶像礼拝や他の悪を行うところとなっていくからです。結果として、敵に敗北することを含む、主の罰がもたらされます(例えば、士師 6:1 を参照)。そして、最終的には悔い改め、主に解放を乞い願うというサイクルです。

神がギデオンを取り扱ったのは、イスラエルの民が異民族に抑圧されている中で絶望の叫びを上げたことへの、直接の応答としてでした。御使いがギデオンに対して語った、「**勇士よ。主があなたといっしょにおられる**」(**士師 6:12**)という言葉は、酒ぶねの中に隠れ、怯えながら小麦を打っていたこの若い農夫には理解できないものでした。

ギデオンはその御使いに言った。「ああ、主よ。もし主が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。私たちの先祖たちが、『主は私たちをエジプトから上らせたではないか』と言って、私たちに話したあの驚くべきみわざはみな、どこにありますか。今、主は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました。」すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか」… すると、ギデオンは言った。「お願いです。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。…これで、この方が主の使いであったことがわかった。それで、ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は面と向かって主の使いを見てしまいました。」(士師記 6:13-14、17、22)

ギデオンの祈りは、無力で無価値な自分という感覚(6:15)もさることながら、自分が属する伝統への自覚と、その民が神に再び立ち戻ることへの切望から流れ出ているものでした。彼は、神に対して完全に驚き惑いつつも、思いを率直に吐露しています。このような正直な謙遜は、イスラエルの暗闇の中で、輝く光に価するものでした。神は、ギデオンの弱さと謙遜の感覚に目を留められ、偉大な使命のために彼をお選びになったのです。自己への過信は、神により頼むことに対しては最大の敵となり得るのです。

「しるしを、私に見せてください」(6:17)というギデオンの願いは、一見、不適切な願いであるかのように見えます。しかし、しるしを求める彼の願いは、信仰の欠如というよりは、自らに対する不信から出ているものでした。彼は、自分に指示を与えておられるのがまさに主であり、自分が何かの幻想や偽りの幻の犠牲者ではないということを確信する必要があったのでした。

自分は本当に神にお出会いしているのだと気づいたとき、ギデオンは純粋な恐怖に圧倒されました(6:22)。しかし、神は私たちが耐えられないような形でご自分を啓示されることはありません。**「すると、主はギデオンに仰せられた。『安心しなさい。恐れるな。あなたは死なない』」(6:23)。**神の啓示というものの持つ巨大な力こそ、神がギデオンをいかに評価しておられたかを示しています。ギデオンは即座に主のために祭壇を築き、それを「ヤハウェ・シャローム」、すなわち「主は平安」と名づけました。神が平安のうちに接してくださったからでした。主が「安心しなさい」とおっしゃったとき、ギデオンは神への見方を大いに広げられることとなったのです。神はイスラエルをお見捨てになってしまわれたのだという彼の思いは霧散してしまいました。そこで彼は、主との新しい関係を示すものとして祭壇を築いたのでした。

ギデオンの「羊の毛」は、神のみこころを見出すための道具ではありませんでした。みこころは既によくわかっていました。ただ、あらためての確証が必要だったのです。神はギデオンの願いを尊重してくださったのです

が、この「羊の毛」の逸話はこれまで、善意からであれ、誤った理解をしたクリスチャンによって、賢明でない形で適用がなされてきました。それらのクリスチャンはこの逸話を、神のみことばによって導かれることの代用物として用いようとするのです。

「…　今、私は打ち場に刈り取った一頭分の羊の毛を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降りていて、土全体がかわいていたら、あなたがおことばのとおりに私の手でイスラエルを救われることが、私にわかります。」　すると、そのようになった。ギデオンが翌日、朝早く、その羊の毛を押しつけて、その羊の毛から露を絞ると、鉢いっぱいになるほど水が出た。ギデオンは神に言った。「私に向かって御怒りを燃やさないでください。私にもう一回言わせてください。どうぞ、この羊の毛でもう一回だけ試みさせてください。今度はこの羊の毛だけがかわいていて、土全体には露が降りるようにしてください。」（士師記 6:37-39）

ギデオンにとって、このようなお願いをすることは、許容範囲にありました。神もこれを尊重してくださいました。しかし、私たちにとっては、同様のお願いは、危険で、道をそらせるものになりかねません。なぜでしょうか。ギデオンが直面していたジレンマを想像してみましょう。彼は、支配者であるミデヤン人の権威に対する反乱を導くようにという依頼を受けていました。今の読者にとっては、神がご自分の民を異民族の抑圧から解放したいとお望みになることは当然のことと思われるでしょう。しかし、イスラエルはそれまでに罪を犯していたのであり、敵による侵略は、あらかじめ宣告されていた罰であったのです。イスラエルは七年にわたって神の裁きを受けていました(6:1-6)。そのように、神ご自身がご自分の不従順な民の上に置かれた権威です。神がそれに逆らうよう願っておられるなどということを、ギデオンはどのようにして確信することができたのでしょうか。ギデオンが取ったような行動は、このような事例においてのみ、すなわち、神が自分を尋常ではない方向に導いておられる、あるいは、正当な判断や神が通常なさっていることに反するようなことをするよう自分に願っておられると感じるときにのみ、正当なものとなり得るのです。

（まとめとして）

言い替えるなら、羊の毛を広げたとき、ギデオンは既に、神が自分に何を願っておられるか(6:14)はわかっていたのです。ただ、彼は聞いたことをなかなか信じることができずにいました。自分に語りかけてくださっているのは本当に神なのだろうか。自分はヘブライの若者たちの多くが願っていること、すなわち、イスラエルをミデヤン人から解放するということを夢見ているだけではないのか。ヘブライ人だけでなく異邦人のリーダーに対しても同様に権威をお与えになる神が、本当にその権威に逆らうように願っておられるのだろうか。神は本当に自分のような、弱く、取るに足りない人物を用いたいとお思いになるのだろうか。羊毛を用いるという行為は、既に受け取っていた神からのご指示ではあったものの、その妥当性がわからなかったという理由により、本来の目的にかなうものとなったのかもしれません。歴史を見ると、ごく最近の歴史の中にも、神が同じような形で介入しておられるような事例は見られます。しかし、神のみこころを見出すための一般的な手引きとしては、新約聖書の教会の事例と教えによって、既に別の形のものが確立されているのです。

質問

1．デボラの祈りにはどのような特徴がありましたか？
彼女の祈りはあなたにとってどのような模範になりますか？

2．士師の時代に、イスラエルの人々が主に仕える姿には一つのサイクルがありました。
それはどのようなサイクルでしたか？
あなたも同じようなサイクルに陥ることがありませんか？

3．神は、ギデオンのどのような姿に目を留められ、彼を偉大な使命のために選ばれましたか？
あなたはギデオンから祈りについてどのようなことを学ぶことができますか？

4．ギデオンは自分が本当に神にお出会いしていると理解した時、そして神の言葉を続けて聞いた時、どのような変化を経験しましたか？
あなたが神に出会って、神への見方を大いに広げられることになった経験がありますか？

5．ギデオンは、「羊の毛」を使って神の御心を確認しようとしました。それは、彼がどのようなジレンマに直面していたからですか？　あなたが神の御心を確信するためにはどうしたら良いと思いますか？

6．今日読んだ個所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？

祈り

天の父なる神さま。あなたの前ではいつも謙遜で正直な態度でありますように。
そしてあなたのみこころを正しく理解し、従うことができますように。